

科目名		コミュニケーション実践 I			
担当教員	今井 健介		実務授業の有無	×	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。 コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	周囲の人と「話す」こと、「聞く」ことによって円滑なコミュニケーションをとることができる。 コミュニケーション検定初級合格ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社サーティファイ コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションを考える、目的に即して聴く		P2-9		
2	傾聴・質問する		P10-14		
3	目的を意識する、話を組み立てる		P15-22		
4	言葉を選び抜く		P23-29		
5	表現・伝達する		P30		
6	来客対応		P36-39		
7	電話対応		P40-43		
8	アポイントメント・訪問・挨拶		P44-48		
9	情報共有の重要性、チームコミュニケーション		P49-59		
10	接客・営業、クレーム対応		P60-71		
11	会議・取材・ヒアリング、面接		P72-82		
12	模擬問題		P84-99		
13	過去問題①		P100-115		
14	過去問題②		P116-131		
15	過去問題③		P132-148		
16	コミュニケーション検定				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			コミュニケーション検定合格のために、毎回授業に出席する。		
実務経験教員の経歴					

科目名		就職実務 I			
担当教員	今井 健介	実務授業の有無	×		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかり理解した上で就職活動を進めていく。 身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年(翌々年)の就職活動を意識する。 で実施。 対面授業				
学習目標 (到達目標)	就職活動の心構えと流れを知ることができる。 自分と職業を理解することができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	これからどう生きていくか、一生でどのくらい稼げるのか、どんな生活を送りたいか、社会はどんな人材を求めているのか		プリント		
2	チャンスを逃がさない、働く理由を考える		プリント		
3	伝わる文章の書き方、相手を納得させる論理力、構成を考える		プリント		
4	自己PRのネタを探す、自己PRの骨格をつくる、説得力のある自己PRをつくる		プリント		
5	BtoBとBtoCの違いを知る、業界について考える、職種について考える		プリント		
6	求職登録面接とは何か、求職票作成の仕方、インターンシップとは何か、インターンシップ申込書作成の仕方		プリント		
7	求職票作成、自己PR作成、面接練習①		個別作業		
8	求職票作成、自己PR作成、面接練習②		個別作業		
9	求職票作成、自己PR作成、面接練習③		個別作業		
10	身だしなみセミナー、求職登録面接		女子メイクセミナー、男子身だしなみセミナーを受講 求職登録面接を受ける		
11	インターンシップ履歴書作成の仕方		プリント		
12	企業研究の仕方、志望動機の書き方		プリント		
13	履歴書作成、志望動機作成①		個別作業		
14	履歴書作成、志望動機作成②		個別作業		
15	インターンシップ日誌の作成の仕方、身だしなみについて		プリント		
16	就職研修		インターンシップに向けての心構えと問題事例、また今後の就職活動に向けての心構えを学ぶ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			書類作成や面接練習をすることもあるので、毎回授業に出席し、提出物などの遅れがないようにする。面接練習は必ず事前に準備しておくこと。		
実務経験教員の経歴					

科目名		潜水士対策			
担当教員	今井 健介		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	96
授業概要、目的、授業の進め方	過去問研究を主眼に置きながら4つの単元(潜水業務/送気、潜降、浮上/高気圧障害/関係法令)に効率的に取り組む。対面授業で実施。				
学習目標(到達目標)	国家試験 潜水士合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	潜水士テキスト(中央労働災害防止協会)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	潜水業務①		座学		
2	潜水業務②		座学		
3	潜水業務③		座学		
4	送気、潜降、浮上①		座学		
5	送気、潜降、浮上②		座学		
6	送気、潜降、浮上③		座学		
7	高気圧障害①		座学		
8	高気圧障害②		座学		
9	高気圧障害③		座学		
10	関係法令①		座学		
11	関係法令②		座学		
12	関係法令③		座学		
13	過去問題練習、解説		座学		
14	過去問題練習、解説		座学		
15	過去問題練習、解説		座学		
16	過去問題練習、解説		座学		
17	過去問題練習、解説		座学		
18	過去問題練習、解説		座学		
19	過去問題練習、解説		座学		
20	過去問題練習、解説		座学		
21	過去問題練習、解説		座学		
22	過去問題練習、解説		座学		
23	過去問題練習、解説		座学		
24	潜水士試験				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で海獣トレーナーとして8年勤務			

科目名		PC実習			
担当教員	安達 秀子		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	Excelの理解を深め、自信をもって活用できる基本技能を身につける				
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験 3級 取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Excel2021 クイックマスター 基本編 Excel2021問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1 Excelの基本 Chapter2 データの編集		画面構成、用語の確認 範囲選択 文字の入力、数値の入力		
2	Chapter2 データの編集 ●問題集 練習問題1【問題2】(1)～(3)		日付の入力、オートフィル、数式、合計関数、相対参照・絶対参照、コピー・移動		
3	Chapter3 表の編集 ●問題集 練習問題2【問題2】(1)～(3)		セルの書式設定、表示形式		
4	Chapter7 関数		基本関数の意味と使い方(平均、最大、最少、データの個数位)		
5	Chapter8 データベース機能 ●問題集 練習問題1【問題2】(4)～(6)、【問題3】		並べ替え、フィルター		
6	●問題集 練習問題2【問題2】(4)～(6)、【問題3】 Chapter5 グラフと図形の作成 Chapter6 ブックの利用と管理		グラフ作成・編集、ワークシート名の変更、シートコピー		
7	Chapter4 ブックの印刷 ●問題集 練習問題1 完成		ページ設定、グラフ作成・編集の基本、スパークライン		
8	●練習問題2～3		解説誘導しながら 答案解答作成		
9	●練習問題4～5		各人のペースで解答 巡回してチェック・ポイント解説		
10	●練習問題6～7		"		
11	●練習問題8～9		"		
12	●練習問題10、模擬問題2		"		
13	●模擬問題3～4		"		
14	●模擬問題5～6		"		
15	●試験実施プログラム 模擬問題1		前問題振り返り 時間計測して実施、解答ファイル採点		
16	検定				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコンの基本的な操作の仕方、表計算やデータを利用した簡単な資料作成の法をしっかりとマスターしましょう。授業中に分からない事や上手く出なかった事は休み時間を利用して練習をしましょう。		



ス

参

順

り基  
方  
来な

□

科目名		PC実習			
担当教員	安達 秀子	実務授業の有無	○		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	日本語文章入力がある程度の速さで、正確に行えるようにする Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける				
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能認定試験3級程度の知識及び技術の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Word2016 クイックマスター 基本編 Word文書処理技能認定試験 3級問題集				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1 Wordの基本	授業の目的の理解 Windows基本操作、基本知識の重要性			
2	Chapter2 文字の入力と編集の基本操作 Chapter3 文書の編集	日本語入力の基本操作の確認 正確な入力の重要性、コピー・移動の状況に応じた方法			
3	Chapter3 文書の編集	Wordにおける段落書式の重要性			
4	Chapter3 文書の編集 Chapter4 文書の印刷	C2～3で学習した内容を該当設問で確認			
5	Chapter5 文書の作成	タブ機能の重要性の理解、タブ設定とタブ挿入の理解 ルーラーの重要性の確認			
6	Chapter6 表を使った文書の作成	表作成・編集の基本の理解、操作に応じたりボンの確認 C4～6で学習した内容を該当設問で確認			
7	Chapter7 図形や画像を使った文書の作成	オブジェクト作成・編集操作の基本の理解			
8	練習問題1	QMで学習した機能を確認しながら設問解答 実用目的の成果物として完成させる			
9	練習問題2～	「作成」ファイルと「編集」ファイルの保存の必要性、名前を付けて保存と上書き保存の理解の重要性			
10	練習問題	完成確認後、各自で次の練習問題に進む 練習問題2「編集」の確認と疑問点などの確認・回答			
11	練習問題	〃			
12	模擬問題	〃			
13	模擬問題	〃			
14	試験実施プログラム 模擬問題	プログラム操作方法・試験の流れの確認 画面配置に慣れる。解答ファイル採点			
15	試験実施プログラム サンプル問題	前問題振り返り 時間計測して実施 解答ファイル採点			
16	期末試験/検定	検定必須受験学科(飼育、DT、ビジネス、飼育ケア)は検定受験			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコンの基本的な操作の仕方、文書作成の方法をしっかりマスターしましょう。授業中に分からない事や上手く出来なかった事は休み時間を利用して練習をしましょう。			
実務経験教員の経歴	一般向けパソコン教室において20年以上関わっていた				



科目名		ビジネスマナー			
担当教員	小林 美江	実務授業の有無	×		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保ちつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。 また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格できる準備を整える。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	社会人常識マナー検定に合格できる、ビジネスマナーを身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社ウイネット 実践ビジネスマナー 公益社団法人全国経理教育協会 社会人常識マナー検定試験				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	仕事に取り組む心構え	P8-12 教務室入退室・書類の提出の仕方チェック			
2	報告・連絡・相談、会社の組織	P13-16 指示を受けて業務を遂行し報告するロールプレイング			
3	基本動作、言葉の遣い方	P18-30 お辞儀・椅子の座り方チェック			
4	受付の仕方、名刺の渡し方	P32-40 受付ロールプレイング			
5	取り次ぎの仕方、案内の仕方	P41-48 受付→応接室案内ロールプレイング			
6	応接室の案内の仕方、お茶の出し方、環境整備	P49-56 お茶出しロールプレイング			
7	電話の受け方、伝言メモ	P55-69			
8	電話のかけ方	P70-76 インターンシップ確認電話ロールプレイング			
9	慶事業務	プリント			
10	弔辞業務、お見舞い	プリント			
11	社内で使用する備品、郵便の取り扱い	プリント			
12	ビジネス文書とは、社内文書作成の仕方、メールの送り方	プリント iPad(スマホ)でメール作成送信添削			
13	社外文書作成の仕方	プリント PC(iPad)で社外文書作成提出添削			
14	お礼状の作成の仕方	プリント 直筆でお礼状作成提出添削			
15	期末試験				
16	期末試験、解答・解説				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		積極的にロールプレイングに取り組み、提出物の期限は守ること。 インターンシップ前後に行う電話がけやお礼状作成など、マニュアル通り行えないことを理解し、臨機応変に対応できるように毎日の学校生活でもビジネスマナーを意識すること。			
実務経験教員の経歴					

科目名		水槽管理実習 I			
担当教員	佐藤 真司		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	水槽メンテナンスの手順を考え、自主的に水槽管理ができるようになる。 学内外の水槽管理を行う。 業で実施。				対面授
学習目標 (到達目標)	各水槽の問題点を自ら判断し、適切な水槽メンテナンスができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
2	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
3	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
4	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
5	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
6	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
7	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
8	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
9	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
10	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
11	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
12	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
13	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
14	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
15	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
16	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		観賞魚販売店で販売スタッフとして4年勤務			

科目名		水族飼育実習 I			
担当教員	澁谷 こず恵		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	海水水槽の管理を学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水槽管理の基本的な技術を身に付けている。 海水水槽の立ち上げ、海水魚の淡水浴を実施でき、手順を他人に説明できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	水槽台組み立て		個人水槽の器具セッティングを行う		
2	水槽設置、ガーデンマットのカット		個人水槽の器具セッティングを行う		
3	器具設置		個人水槽の器具セッティングを行う		
4	フィルターセット		個人水槽の器具セッティングを行う		
5	水槽に水を入れ稼働		個人水槽の器具セッティングを行う		
6	ライブロックを入れる		個人水槽のセッティングを行う		
7	パイロットフィッシュの導入		パイロットフィッシュについて学ぶ		
8	水槽管理①		コケ取りや換水を実施		
9	水槽管理②		コケ取りや換水を実施		
10	水槽管理③		コケ取りや換水を実施		
11	水槽管理④		コケ取りや換水を実施		
12	水槽管理⑤		コケ取りや換水を実施		
13	水槽管理⑥		コケ取りや換水を実施		
14	水槽管理⑦		コケ取りや換水を実施		
15	水槽管理⑧		コケ取りや換水を実施		
16	フィルター掃除		フィルターの掃除		
17	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
18	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
19	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
20	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
21	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
22	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
23	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
24	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
25	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
27	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
28	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
29	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
30	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
31	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
32	後期末試験		後期授業の総まとめ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で展示スタッフとして12年勤務			

科目名 水族飼育理論 I					
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期前半
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	水族館設備の名称や仕組みについて、理解する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	現場の見学や、実際の現場で就業する際に所見で種類・構造の把握ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	海水魚2500図鑑、クラゲ大図鑑、新・飼育ハンドブック1～6、はじめてのマリンアクアリウム				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	水槽の材質		座学		
2	ディスプレイ材料、素材物質		座学		
3	照明(太陽光、蛍光灯、HID、LED)		座学		
4	水族館での海水取水		座学		
5	海水処理の方法、パイプのメンテナンス		座学		
6	ろ過の前処理(沈殿、プロテインスキマー、凝集剤注入)		座学		
7	水族館のろ過装置圧力式		座学		
8	重力式の仕組み		座学		
9	逆洗、マッドボール		座学		
10	配管設備、海獣類のろ過(薬品注入)		座学		
11	熱交換器		座学		
12	ボイラー		座学		
13	冷却器、ブロー		座学		
14	排水処理		座学		
15	まとめ		座学		
16	試験		座学		
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			構造の理解をより深めるため、作図の支持する試験を実施する。		
実務経験教員の経歴			水族館元館長		

科目名	観賞魚飼育概論				
担当教員	吉田 拓哉	実務授業の有無	○		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	熱帯魚、金魚、淡水魚、海水魚、錦鯉などの観賞魚及び関連用品に関する販売及び管理に携わる専門家になるために必要な内容をテキストに沿って授業を行う。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	観賞魚飼育・管理士の資格認定に向けた知識が習得できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	観賞魚飼育・管理士ハンドブック I				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	飼育水の管理	座学			
2	飼育水の水質検査	座学			
3	水槽の種類と取り扱い方	座学			
4	飼育器具と用品の取り扱い方	座学			
5	濾過器(フィルター)の種類と役割	座学			
6	飼育水の温度管理と保温器具	座学			
7	期末試験				
8	フィードバック				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	水槽器具メーカー勤務				

科目名	魚病学				
担当教員	小川 龍司	実務授業の有無	○		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	観賞魚における魚病の原因、症状、予防・治療に関する基礎知識を学ぶ。魚病の具体的な症例を理解し、観賞魚用医薬品の取り扱い方や使用の際の注意点を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	観賞魚における魚病の予防、治療を行うことができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	観賞魚飼育・管理士ハンドブック I				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	魚病の原因と早期発見	座学			
2	ストレスのシグナル	座学			
3	寄生虫による病気	座学			
4	細菌による病気	座学			
5	カビ・ウイルスによる病気	座学			
6	観賞魚用医薬品の正しい使用方法	座学			
7	期末試験				
8	フィードバック				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	水槽器具メーカー勤務				

科目名					
ネイチャーアクアリウム理論					
担当教員	小川 龍司		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	ネイチャーアクアリウムに対する理解を深め、制作から維持管理についての知識を習得する。 面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	ネイチャーアクアリウム制作に必要な知識を身に付けている。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ネイチャーアクアリウムとは		座学		
2	水槽内の生態系		座学		
3	レイアウトの構想		座学		
4	底床の役割		座学		
5	底床システムのつくり方		座学		
6	底床の維持		座学		
7	レイアウトの制作		座学		
8	基本三構図		座学		
9	流木と石の注意点		座学		
10	水草の配植		座学		
11	フィルター働き		座学		
12	物理、化学、生物ろ過とは		座学		
13	照明の役割		座学		
14	水草に効果的な光とは		座学		
15	照明器具の種類と選択		座学		
16	水槽に適した照度		座学		
17	CO2添加の必要性		座学		
18	水槽に適した照度		座学		
19	CO2添加の必要性		座学		
20	栄養素添加		座学		
21	三大栄養素と微量元素		座学		
22	液肥の使い方		座学		
23	長期維持について		座学		
24	期末試験		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			水槽器具メーカー勤務		

科目名					
ネイチャーアクアリウム実践					
担当教員	吉田 拓哉		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	96
授業概要、目的、授業の進め方	海洋生物・ドルフィンコースのために、ネイチャーアクアリウムの制作から管理までを実習する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	器具の準備から、構図作製、植栽、日常の管理までをできるようにする。完成させた水景を写真で記録する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ネイチャーアクアリウムとは		水槽を使った実習		
2	水槽環境を支える育成器具		水槽を使った実習		
3	水槽台の調整と水槽設置		水槽を使った実習		
4	レイアウトプランの作成		水槽を使った実習		
5	流木の配置		水槽を使った実習		
6	構図の写真撮影		水槽を使った実習		
7	水草の発注		水槽を使った実習		
8	水草の植栽		水槽を使った実習		
9	植栽直後の写真撮影		水槽を使った実習		
10	水質測定／CO2添加量の調整		水槽を使った実習		
11	水質測定／換水		水槽を使った実習		
12	水質測定／換水		水槽を使った実習		
13	トリミング		水槽を使った実習		
14	水槽管理		水槽を使った実習		
15	水景写真撮影		水槽を使った実習		
16	期末試験週		水槽を使った実習		
17	水槽管理		水槽を使った実習		
18	水槽管理		水槽を使った実習		
19	水槽管理		水槽を使った実習		
20	水槽管理		水槽を使った実習		
21	水槽管理		水槽を使った実習		
22	写真撮影		水槽を使った実習		
23	写真撮影		水槽を使った実習		
24	水槽リセット		水槽を使った実習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			水槽器具メーカー勤務		



科目名		海洋保全論			
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期後半
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	海洋汚染の大半が故意や取扱不注意等による人為的な要因により発生していることを知り、海洋汚染を防止し、海洋環境を保全する基本原理を学ぶ 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海洋生物の保全における現状・問題点・対策について学ぶ。海洋保全のために必要な海洋環境や海洋生物保護管理の知識を習得することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	海洋の基礎生産(オキアミ資源)		座学		
2	南極・北極の環境とオキアミとの関係-1(アイスアルジー)		座学		
3	南極・北極の環境とオキアミとの関係-2(湧昇流)		座学		
4	海洋循環(海洋ベルトコンベアー)		座学		
5	エルニーニョ、ラニーニャと海洋環境		座学		
6	地球温暖化が海洋環境に及ぼす影響		座学		
7	潮汐と海洋生物の行動		座学		
8	海洋の音環境と鯨類		座学		
9	海洋における騒音問題		座学		
10	海洋におけるゴミ問題		座学		
11	海洋汚染問題		座学		
12	海洋動物の保護活動-1		座学		
13	海洋動物の保護活動-2		座学		
14	海洋動物の保護活動-3		座学		
15	期末試験		座学		
16	試験問題の解答および解説		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			近畿大学講師		

科目名		魚類概論 I			
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期後半
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	魚類は呼吸・血液・消化・内分泌・感覚など独自の生理作用を営むものが多い。初学者の理解を深めるため生理学の基本項目から魚類の生理特異性などについて学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	魚類の体のしくみについての基礎知識を習得する。水族館やショップなどの仕事に役立つ人材になるために必要な知識を学ぶことを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「魚学入門」恒星社厚生閣				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	魚類概論の概要を紹介		座学		
2	魚類の外部形態的特徴-1		座学		
3	魚類の外部形態的特徴-2		座学		
4	魚類の外部形態の測定-1		座学		
5	魚類の外部形態の測定-2		座学		
6	魚類の外部形態の測定-3		座学		
7	魚類の分類体系-1		座学		
8	魚類の分類体系-2		座学		
9	魚類の分類体系-3		座学		
10	マリンピア日本海の見学実習		施設見学		
11	無顎類-1		座学		
12	無顎類-2		座学		
13	無顎類-3		座学		
14	臨海実習		座学		
15	期末試験		座学		
16	試験問題の解答及び解説		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		近畿大学講師			

科目名		水生動植物実験 I			
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	河川、湖沼、地下水、海洋などの水域に生息する水中あるいは水界に密接に依存して生活する動物について学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	無脊椎動物・魚類・イルカの体のしくみを理解する。水族館において飼育されている動物達の体構造をすることにより、これら動物達の飼育に必要な基礎的知見を得ることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	魚類外部形態-1(鱗)		講義、授業内容に応じた作業		
2	魚類外部形態-2(スケッチ)		講義、授業内容に応じた作業		
3	魚類外部形態-3(スケッチ)		講義、授業内容に応じた作業		
4	魚類外部形態-4(体成分測定)		講義、授業内容に応じた作業		
5	魚類外部形態-5(アジの体成分測定とスケッチ)		講義、授業内容に応じた作業		
6	イルカ外部形態(体成分測定とスケッチ)		講義、授業内容に応じた作業		
7	マリンピア日本海見学実習		講義、授業内容に応じた作業		
8	魚類内部形態-1(胴体骨格)		講義、授業内容に応じた作業		
9	魚類内部形態-2(頭部骨格)		講義、授業内容に応じた作業		
10	魚類内部形態-3(耳石)		講義、授業内容に応じた作業		
11	魚類内部形態-4(消化器官)		講義、授業内容に応じた作業		
12	魚類内部形態-5(生殖腺)		講義、授業内容に応じた作業		
13	臨海実習の説明・準備		講義、授業内容に応じた作業		
14	臨海実習		講義、授業内容に応じた作業		
15	前期試験(実習レポート提出)		講義、授業内容に応じた作業		
16	フィードバック		講義、授業内容に応じた作業		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		近畿大学講師			

科目名		海洋哺乳類概論			
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	海洋哺乳類の種の特性、ストランディングや混獲、年齢・性別査定、外部計測法等について基本事項を学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海洋哺乳類についての基礎知識を学ぶ。水族館飼育員として必要な知識を習得することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	海洋哺乳類概論の概要を紹介		座学		
2	海洋哺乳類の分類		座学		
3	鯨脚類の生物学的特性-1		座学		
4	鯨脚類の生物学的特性-2		座学		
5	鯨脚類の生物学的特性-3		座学		
6	海牛類の生物学的特性-1		座学		
7	海牛類の生物学的特性-2		座学		
8	海牛類の生物学的特性-3		座学		
9	ラッコ・カワウソの生物学的特性		座学		
10	鯨偶蹄類の生物学的特性-1		座学		
11	鯨偶蹄類の生物学的特性-2		座学		
12	水族館での飼育方法-1		座学		
13	水族館での飼育方法-2		座学		
14	水族館での飼育方法-3		座学		
15	期末試験		座学		
16	試験問題の解答および解説		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			近畿大学講師		

科目名	生物統計学				
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	データをPowerPointとExcelに入力し生物統計学における処理方法、考え方を学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	PowerPointとExcelを用いて生物統計学の基本を理解する。実験データの統計処理の考え方および方法を習得することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「魚学入門」恒星社厚生閣				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	生物統計におけるPowerPointの使用方法		座学		
2	生物統計におけるExcelの使用方法		座学		
3	Excelでの立体図形の描画方法		座学		
4	Excelでの日本海海底地形の描画方法		座学		
5	Excelでの日本海の体積(水量)の計算方法		座学		
6	前期試験(課題提出)		座学		
7	まとめ・復習		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			近畿大学講師		

科目名		行動の原理			
担当教員	加藤 治彦		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	後期に始まるトレーナートレーニング I の理論分野。主にオペラント条件付けを扱い水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングにおける背景(理論)を学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	オペラント条件付け、レスポナント条件付け、消去、般化と弁別など、学習における基本的な理論を学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材、新飼育ハンドブック5水族館編				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オペラント条件付け(強化)		座学		
2	正の強化		座学		
3	負の強化		座学		
4	オペラント条件付け(弱化)		座学		
5	正の弱化		座学		
6	負の弱化		座学		
7	レスポナント条件付け		座学		
8	般化と弁別		座学		
9	脱感作		座学		
10	シェイピング		座学		
11	ハズバンダリートレーニング		座学		
12	現代社会における強化		座学		
13	シェイピングゲーム		座学		
14	フィッシュトレーニング概要		座学		
15	期末試験対策		座学		
16	期末試験				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			水族館元館長		

科目名		海洋学			
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	各講義ごとに「海洋の断面構造」や「水の性質」等のテーマを決定し、海洋に関するより深い理解を構築する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海洋を取り巻く環境を理解し、自然現象原因を説明できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	海洋の断面構造		座学		
2	海の物理現象(気象、海象)について		座学		
3	水の性質		座学		
4	気圧と水圧		座学		
5	光の散乱と吸収		座学		
6	緯度、経度について		座学		
7	光の三原色		座学		
8	赤外線、可視光線、紫外線		座学		
9	温室効果		座学		
10	風		座学		
11	波		座学		
12	海流		座学		
13	台風		座学		
14	梅雨		座学		
15	日本海の豪雪		座学		
16	期末試験対策		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館元館長			

科目名		トレーナートレーニング I			
担当教員	澁谷 こず恵		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	行動の原理の授業内容をベースにしながら魚のトレーニングを通して水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングの実践基礎を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	スモールステップの原理や脱感作の技術を用いて、力では制御できない生物にハズバンダリートレーニングを実施する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	うまくやるための強化の原理(二瓶社)、オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	選魚、チーム分け、目標行動の設定		トレーニングフィッシュを使った実習		
2	2年生から1年生へ引継ぎ		トレーニングフィッシュを使った実習		
3	魚のトレーニングとイルカのトレーニングの共通点		トレーニングフィッシュを使った実習		
4	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
5	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
6	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
7	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
8	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
9	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
10	進捗状況報告(1回目)及びフィードバック		トレーニングフィッシュを使った実習		
11	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
12	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
13	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
14	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使った実習		
15	進捗状況報告(2回目)及びフィードバック		トレーニングフィッシュを使った実習		
16	レポート提出		トレーニングフィッシュを使った実習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で展示スタッフとして12年勤務			



科目名	海獣類飼育理論 I				
担当教員	今井健介		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	給餌、病気、繁殖、輸送等、生物飼育に関わる知識や見識を得る。対面授業で実施。				対
学習目標 (到達目標)	海獣類の飼育方法を知る				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	新・飼育ハンドブック水族館編(1~2)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	繁殖(総論)		座学		
2	繁殖(鯨類)		座学		
3	繁殖(鯨類)		座学		
4	繁殖(鯨類)		座学		
5	繁殖(鯨類)		座学		
6	繁殖(鰐脚類)		座学		
7	繁殖(鰐脚類)		座学		
8	繁殖(鰐脚類)		座学		
9	繁殖(鰐脚類)		座学		
10	繁殖(裂脚類)		座学		
11	繁殖(裂脚類)		座学		
12	繁殖(海牛類)		座学		
13	繁殖(海牛類)		座学		
14	繁殖まとめ		座学		
15	期末試験		座学		
16	まとめ				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で海獣トレーナーとして8年勤務			

科目名		海洋生物概論 I			
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	海洋生物の行動や生態、水族の環境保全、海の生物資源の活用等を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海洋生物の生息する生態系を、地形から理解する。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	日本の海水魚、海辺の生き物				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	学名、和名、属名、英名 学名のルール		座学		
2	軟骨魚綱(サメの仲間)		座学		
3	軟骨魚綱(エイの仲間)		座学		
4	スタウナギ綱(スタウナギ)、硬骨魚綱(シーラカンス目、ウナギ目、ナマズ目、ニシン目)		座学		
5	硬骨魚綱(キュウリウオ目、ヒメ目、アカマンボウ目、タラ目、アンコウ目)		座学		
6	硬骨魚綱(ダツ目、ボラ目、トウゴロウイワシ目、キンメダイ目、マトウダイ目、トゲウオ目)		座学		
7	スズキ目(メバル科、フサカサゴ科、ハオコゼ科、オニオコゼ科、ホウボウ科、コチ科、スズキ科、ハタ科)		座学		
8	スズキ目(アゴアマダイ科、アマダイ科、テンジクダイ科、アジ科、ヒイラギ科、タカサゴ科)		座学		
9	スズキ目(イサキ科、コバンザメ科、シイラ科、タイ科、イトヨリダイ科、フエダイ科、ヒメジ科、ニベ科、キス科、ヒメツバメウオ科、ハタンボ科)		座学		
10	スズキ目(チョウチョウウオ科、キンチャクダイ科、ゴンベ科、シマイサキ科、ウミタナゴ科、スズメダイ科)		座学		
11	スズキ目(メジナ科、インダイ科、タカベ科、カゴカキダイ科、マナガツオ科、ベラ科、フダイ科、アイナメ科、ハタハタ科、カジカ科)		座学		
12	スズキ目(ダンゴウオ科、ゲンゲ科、オオカミウオ科、ミシマオコゼ科、ヘビギンボ科、コケギンボ科、イソギンボ科、ウバウオ科、ネズボ科、ハゼ科)		座学		
13	スズキ目(マンジュウダイ科、ニザダイ科、マカジキ科、カマス科、タチウオ科、サバ科)		座学		
14	カレイ目、フグ目		座学		
15	期末試験		座学		
16	まとめ		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館元館長			

科目名		水生生物研究 I			
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	新潟市の海岸や鳥屋野潟などフィールドで、四季ごとの変わる環境や生物層の変化を、生物採集や観察を通して理解する。但し、悪天候等の場合はマリンピア日本海の管内生物や種の検索を実施して学習する。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水生生物の生息域や生息環境の理解。生体の同定ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本産魚類検索図鑑全種の同定第三版、日本クラゲ大図鑑、日本の淡水魚・海水魚				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
17	新潟市水族館マリンピア日本海の年間パスポート登録		水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。		
2	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
3	鳥屋野潟にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
4	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
5	マリンピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。		水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。		
6	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
7	鳥屋野潟にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
8	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
9	マリンピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。		水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。		
10	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
11	鳥屋野潟にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
12	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
13	マリンピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。		水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。		
14	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
15	鳥屋野潟にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
16	これまでの採集・観察のまとめ。		これまでの総括をし、再確認をする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館元館長			

科目名	スイムトレーニング I				
担当教員	アルススイミングクラブ		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	近隣のプール施設を利用し、泳力レベルに応じてチーム分けを行い学生それぞれがその日の課題に取り組む。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水族館就職における必要最低条件、潜水25m＋自由形50mをクリアする				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基本型のマスター		プールでのトレーニング		
2	タイム計測、チーム分け		プールでのトレーニング		
3	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
4	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
5	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
6	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
7	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
8	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
9	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
10	タイム計測、チーム分け		プールでのトレーニング		
11	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
12	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
13	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
14	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
15	タイム計測測定		プールでのトレーニング		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			企業へ委託		

科目名		水族館運営 I			
担当教員	澁谷 こず恵	実務授業の有無	○		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	水族館の教育や運営方法について学びWaN水族館の運営に繋げる。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	WaN水族館の企画、運営				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	新・飼育ハンドブック1～5				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	動物園・水族館の役割		座学		
2	水族館の教育①		座学		
3	水族館の教育②		座学		
4	水族館の教育③		座学		
5	水族館の展示①		座学		
6	水族館の展示②		座学		
7	水族館の展示③		座学		
8	動物園の教育①		座学		
9	動物園の教育②		座学		
10	動物園の教育③		座学		
11	動物園の展示①		座学		
12	動物園の展示②		座学		
13	動物園の展示③		座学		
14	WaN水族館準備①		座学		
15	WaN水族館準備②		座学		
16	試験		座学		
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
<b>実務経験教員の経歴</b>		水族館で展示スタッフとして12年勤務			

科目名	コミュニケーション実践Ⅱ				
担当教員	澁谷 こず恵	実務授業の有無	×		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	1年次に勉強したビジネスマナーを復習し、社会人になる準備を始める。 対面授業で実施。				対
学習目標 (到達目標)	社会人としてふさわしい立ち居振る舞いを身につける。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	内定先への暑中見舞い・年賀状の書き方		プリント		
2	社会人になってからのマナー(日常のマナー)		プリント		
3	社会人になってからのマナー(身だしなみ、敬語)		プリント		
4	社会人になってからのマナー(備品の名称、使い方)		プリント		
5	社会人になってからのマナー(メール、ビジネス文書)		プリント		
6	社会人になってからのマナー(接待)		プリント		
7	社会人になってからのマナー(慶弔業務)		プリント		
8	社会人になってからのマナー(退職)		プリント		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			書類作成や個別面談をすることもあるので、毎回授業に出席し、提出物などの遅れがないようにする。		
実務経験教員の経歴					

科目名		就職実務Ⅱ			
担当教員	澁谷 こず恵	実務授業の有無	×		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。 面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	企業研究の方法を知ることができる。 企業訪問や就職試験について知ることができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	就職活動の流れ、必要書類作成について	・就職活動の基準、提出書類の種類、流れを知る ・履歴書の学歴や検定欄の更新			
2	求人検索の方法、求人票の見方	・求人検索サイトを知る ・求人票を見ながら項目ごとの意味を知る			
3	合同企業ガイダンス・会社訪問の心構え、準備	・合同企業ガイダンスへの参加に向けた準備 ・企業研究をどのように行うか知る			
4	面接のマナー、面接の形式	プリント			
5	コミュニケーションは「きく」から始まる、「話す」は「全身表現」	プリント			
6	日本語の発声法、緊張は友達、リズムカルに話す	プリント			
7	ディスカッションの基礎、筆記試験対策	プリント			
8	内定お礼状の書き方	プリント			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		個別面談を行うこともあるので、毎回授業に出席すること。就職関係の提出物などの遅れがないようにすること。			
実務経験教員の経歴					

科目名 水族飼育実習Ⅱ					
担当教員	澁谷 こそ恵		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	1. 海水魚飼育の基礎知識・水族飼育の活用法を習得する。 2. 水槽管理のスピードを上げる 3. 仕上がりの質を上げる 対 面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	上記について理解し、個人の水槽で生体・水槽の維持管理が実践できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	海水魚2500図鑑・クラゲ大図鑑・新飼育ハンドブック1～6				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	概要(前期は魚、後期は無脊椎) 魚の発注のための計画、「明確なテーマを決めて魚を飼育する」		板書のメモ・実習		
2	ライブロックの入荷、キュアリング、出てきた生物の紹介、水槽管理、テーマ選定		板書のメモ・実習		
3	水槽管理の基本手順確認(仕上がりの質を重視)ガラス擦り		板書のメモ・実習		
4	水槽管理の基本手順確認(仕上がりの質を重視)照明器具、塩ダレ、魚類入荷(トリートメント)		板書のメモ・実習		
5	水槽管理の基本手順確認(仕上がりの質を重視)フィルターパイプ、トリートメント完了		板書のメモ・実習		
6	水槽管理の基本手順確認(仕上がりの質を重視)ガラス面外側、魚類の体調チェック		板書のメモ・実習		
7	水槽管理の基本手順確認(仕上がりの質を重視)ガラス面外側、魚類の体調チェック		板書のメモ・実習		
8	水槽管理のスピードアップ、魚類注文		板書のメモ・実習		
9	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
10	水槽管理のスピードアップ、魚類入荷(トリートメント)		板書のメモ・実習		
11	水槽管理のスピードアップ、トリートメント完了		板書のメモ・実習		
12	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
13	水槽管理のスピードアップ、夏期休暇前の準備		板書のメモ・実習		
14	夏期休暇明けの水槽管理		板書のメモ・実習		
15	水槽管理のスピードアップ、魚類注文		板書のメモ・実習		
16	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
17	水槽管理のスピードアップ、魚類入荷(トリートメント)		板書のメモ・実習		
18	水槽管理のスピードアップ、トリートメント完了		板書のメモ・実習		
19	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
20	学園祭へ向けた水槽展示の準備		板書のメモ・実習		
21	学園祭へ向けた水槽展示の準備		板書のメモ・実習		
22	水槽管理、無脊椎動物の飼育計画		板書のメモ・実習		
23	水槽管理、無脊椎動物の注文		板書のメモ・実習		
24	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
25	水槽管理、無脊椎動物の入荷、水槽への導入		板書のメモ・実習		
26	水槽管理、無脊椎動物の体調確認		板書のメモ・実習		
27	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
28	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
29	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
30	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
31	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
32	水槽管理のスピードアップ		板書のメモ・実習		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		授業内で扱った内容(板書する内容)については実践するだけではなく、メモを取らせることで習得を促し、筆記試験を実施する。なお、水槽の管理の度合いでも評価する。			
実務経験教員の経歴		水族館で展示スタッフとして12年勤務			



科目名		プレゼンテーション			
担当教員	今井 健介		実務授業の有無	×	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	基本的に聴衆となり発表者へアンケートによりフィードバックを行う。自分がプレゼン時には準備を周到に行い、配布資料やプレゼン用ファイルを作成・使用する。 授業で実施。対面				
学習目標 (到達目標)	人前で自分の伝えたいことを明確に伝える技術を学ぶ。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	iPadmini、オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	好きな物プレゼン①		個人作業、プレゼンテーション発表		
2	好きな物プレゼン②		個人作業、プレゼンテーション発表		
3	好きな物プレゼン③		個人作業、プレゼンテーション発表		
4	好きな物プレゼン④		個人作業、プレゼンテーション発表		
5	好きな物プレゼン⑤		個人作業、プレゼンテーション発表		
6	好きな物プレゼン⑥		個人作業、プレゼンテーション発表		
7	好きな物プレゼン⑦		個人作業、プレゼンテーション発表		
8	好きな物プレゼン⑧		個人作業、プレゼンテーション発表		
9	動画作成(iMovie)①		個人作業、プレゼンテーション発表		
10	動画作成(iMovie)②		個人作業、プレゼンテーション発表		
11	動画作成(iMovie)③		個人作業、プレゼンテーション発表		
12	動画作成(iMovie)④		個人作業、プレゼンテーション発表		
13	動画作成(iMovie)⑤		個人作業、プレゼンテーション発表		
14	動画作成(iMovie)⑥		個人作業、プレゼンテーション発表		
15	動画作成(iMovie)⑦		個人作業、プレゼンテーション発表		
16	動画作成(iMovie)⑧		個人作業、プレゼンテーション発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					

科目名	水族飼育理論Ⅱ				
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	白点病について学び判別と対処方法を身に付ける。 海水魚及び海水無脊椎動物の繁殖方法を身に付ける。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海水魚の白点病の投薬計算をできるようになる。 海水魚及び海水無脊椎動物の繁殖方法を実践することができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	海水魚の病気の原因、発症の条件		座学		
2	海水魚の白点病の概要		座学		
3	銅イオンの性質。投薬計算に必要な単位。		座学		
4	銅イオンの投薬計算演習①		座学		
5	銅イオンの投薬計算演習②		座学		
5	銅イオンの投薬計算演習②		座学		
6	銅イオンの投薬計算演習③		座学		
7	中間試験		座学		
8	まとめ		座学		
9	海水魚の繁殖①		座学		
10	海水魚の繁殖②		座学		
11	海水魚の繁殖③		座学		
12	海水無脊椎動物の繁殖①		座学		
13	海水無脊椎動物の繁殖②		座学		
14	海水無脊椎動物の繁殖③		座学		
15	期末試験		座学		
16	まとめ		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			水族館元館長		

科目名		マリンアクアリウム理論Ⅱ			
担当教員	富取 拓夢		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	クマノミの繁殖、クラゲの飼育、サンゴの飼育など、マリンアクアリウムにおける応用的な飼育に関する知識を習得する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	これらを飼育するための条件、理論、方法について記述または、説明することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	クマノミの繁殖①		座学		
2	クマノミの繁殖②		座学		
3	クマノミの繁殖③		座学		
4	クマノミの繁殖④		座学		
5	クラゲの飼育①		座学		
6	クラゲの飼育②		座学		
7	クラゲの飼育③		座学		
8	クラゲの飼育④		座学		
9	クラゲの飼育⑤		座学		
10	サンゴの飼育①		座学		
11	サンゴの飼育②		座学		
12	サンゴの飼育③		座学		
13	サンゴの飼育④		座学		
14	サンゴの飼育⑤		座学		
15	期末試験		座学		
16	フィードバック		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		ペットショップで販売スタッフ(観賞魚・爬虫類エリア)として4年勤務			

科目名					
水槽管理実習Ⅱ					
担当教員	佐藤 真司		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	96
授業概要、目的、授業の進め方	水槽メンテナンスの手順を考え、自主的に水槽管理ができるようになる。 学内外の水槽管理を行う。 対面 授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	各水槽の問題点を自ら判断し、適切な水槽メンテナンスができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
2	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
3	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
4	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
5	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
6	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
7	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
8	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
9	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
10	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
11	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
12	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
13	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
14	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
15	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
16	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
17	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
18	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
19	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
20	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
21	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
22	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
23	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
24	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
25	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
27	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
28	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
29	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
30	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
31	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
32	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			観賞魚販売店で販売スタッフとして4年勤務		

科目名	観賞魚飼育・管理士対策				
担当教員	佐藤 真司		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	観賞魚飼育・管理士試験ベーシッククラスの合格に向けた対策授業 面授業で実施。対				
学習目標 (到達目標)	観賞魚の正しい飼育方法、器具の設置、取扱い方を他人に説明できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	観賞魚飼育・管理士ハンドブックⅠ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	過去問題①		過去問題を解き、解答、解説を行う		
2	飼育水の管理について、硬度について、水温について		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
3	濾過について、水替えについて		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
4	フィルターについて		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
5	保温器具について、水温上昇対策について		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
6	飼料について		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
7	底砂について		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
8	病気について①		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
9	病気について②		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
10	基礎魚類学①		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
11	基礎魚類学②		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
12	金魚について①		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
13	金魚について②		テキスト読み合わせ、重要箇所の解説		
14	過去問題②		過去問題を解き、解答、解説を行う		
15	過去問題③		過去問題を解き、解答、解説を行う		
16	観賞魚飼育・管理士試験		観賞魚飼育・管理士試験ベーシックレベルを受験する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		観賞魚販売店で販売スタッフとして4年勤務			

科目名	遺伝・育種学				
担当教員	小川 龍司	実務授業の有無	○		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	生物の遺伝についての基礎知識を学ぶ。生物の育種の基本を理解する。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	生物の遺伝の仕組みが理解できる。飼育動物の品種改良について理解できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	DNAの仕組みと働き		座学		
2	育種と品種改良		座学		
3	倍数性育種		座学		
4	DNA分析(個体識別・集団構造・種判別)		座学		
5	環境影響評価と遺伝子解析 生態系保全とDNA		座学		
6	生物多様性		座学		
7	期末試験				
8	フィードバック				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水槽器具メーカー勤務			

科目名	養殖・繁殖学				
担当教員	小川 龍司	実務授業の有無	○		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	水生生物の繁殖の基礎知識を学ぶ。観賞魚を含む身近な生物の増養殖についての基礎を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水生生物の繁殖について理解し、持続的な飼育展示や増養殖に必要な知識を身につけることができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	新飼育ハンドブック水族館編1 繁殖・飼料・病気 熱帯魚繁殖入門				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	繁殖の定義と意義 有性生殖と無性生殖	座学			
2	卵生と胎生 雌雄同体現象 卵の授精と胚発生	座学			
3	繁殖習性と繁殖戦略 親魚の養成	座学			
4	熱帯魚の繁殖	座学			
5	錦鯉の養殖	座学			
6	日本における水産増養殖	座学			
7	期末試験				
8	フィードバック				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	水槽器具メーカー勤務				

科目名	環境・生態保護論				
担当教員	佐藤正浩、仁木亨		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	自然環境、生態系をテーマに、生態系の仕組み、現状、保護について学ぶ対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	環境、生態系に関する知識を習得し、保護、保全についての施策について学んでいる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	生態と環境				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	環境と生態系に関する概論		座学		
2	地球生態系の未来(環境・生態保護の重要性)		座学		
3	物質循環と人間活動 炭素の循環		座学		
4	物質循環と人間活動 窒素の循環		座学		
5	物質循環と人間活動 リンの循環		座学		
6	物質循環と人間活動 硫黄の循環		座学		
7	物質循環と人間活動 微量汚染物質と野生生物		座学		
8	生物多様性の危機 生態系の多様性		座学		
9	生物多様性の危機 種の多様性		座学		
10	生物多様性の危機 遺伝的多様性		座学		
11	地球上の環境		座学		
12	緯度による環境の違い		座学		
13	大気の循環と降水量		座学		
14	生物の地理的分布と気候		座学		
15	期末試験		座学		
16	フィードバック		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水槽器具メーカー勤務			



科目名		トレーナートレーニングⅡ			
担当教員	澁谷 こず恵		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	行動の原理の授業内容をベースにしながら魚のトレーニングを通して水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングの実践の基礎を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	スモールステップの原理やシェイピングの技術を用いて、力では制御できない生物にハズバンダリートレーニングを実施する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	うまくやるための強化の原理(二瓶社)、オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	2年生から1年生へ引継ぎ		トレーニングフィッシュを使つての実習		
2	トレーニング継続・管理・引継ぎ		トレーニングフィッシュを使つての実習		
3	トレーニング継続・管理・引継ぎ		トレーニングフィッシュを使つての実習		
4	トレーニング継続・管理・引継ぎ		トレーニングフィッシュを使つての実習		
5	トレーニング継続・管理・引継ぎ		トレーニングフィッシュを使つての実習		
6	トレーニング継続・管理・引継ぎ		トレーニングフィッシュを使つての実習		
7	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使つての実習		
8	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使つての実習		
9	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使つての実習		
10	進捗状況報告(1回目)及びフィードバック		トレーニングフィッシュを使つての実習		
11	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使つての実習		
12	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使つての実習		
13	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使つての実習		
14	トレーニング継続・管理		トレーニングフィッシュを使つての実習		
15	進捗状況報告(2回目)及びフィードバック		トレーニングフィッシュを使つての実習		
16	レポート提出		トレーニングフィッシュを使つての実習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で展示スタッフとして12年勤務			

科目名		水生生物研究 I			
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	新潟市の海岸や鳥屋野潟などフィールドで、四季ごとの変わる環境や生物層の変化を、生物採集や観察を通して理解する。但し、悪天候等の場合はマリンピア日本海の館内生物や種の検索を実施して学習する。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水生生物の生息域や生息環境の理解。生体の同定ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本産魚類検索図鑑全種の同定第三版、日本クラゲ大図鑑、日本の淡水魚・海水魚等				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
17	新潟市水族館マリンピア日本海内観察	水族館内生物の観察をする。また、今後の授業の進行について解説する。			
2	日和山海岸にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
3	鳥屋野潟にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
4	日和山海岸にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
5	マリンピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。	水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。			
6	日和山海岸にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
7	鳥屋野潟にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
8	日和山海岸にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
9	マリンピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。	水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。			
10	日和山海岸にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
11	鳥屋野潟にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
12	日和山海岸にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
13	マリンピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。	水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。			
14	日和山海岸にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
15	鳥屋野潟にて生物採集。	季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。			
16	これまでの採集・観察のまとめ。	これまでの総括をし、再確認をする。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	水族館元館長				

科目名		海洋生物概論Ⅱ			
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	海洋生物を取り巻く環境及びその分類や無脊椎動物の基本を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	分類の基本が分かる 無脊椎動物の分類の基本が分かる				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	生物の分類界、門、綱、目、科、属、種 学名、和名、属名、英名		座学		
2	海綿動物門		座学		
3	刺胞動物門(構造、ヒドロ虫綱)、刺胞動物門(花虫綱)		座学		
4	刺胞動物門(鉢虫綱)、扁形動物門、環形動物門		座学		
5	環形動物門(多毛綱)		座学		
6	軟体動物門(大分類、腹足綱)、軟体動物門(二枚貝綱)		座学		
7	軟体動物門(頭足綱)		座学		
8	節足動物門(大分類、口脚目)		座学		
9	節足動物門(十脚目コエビ下目)		座学		
10	節足動物門(十脚目オトヒメエビ下目、イセエビ下目、異尾下目、短尾下目)		座学		
11	節足動物門(異尾下目、短尾下目)		座学		
12	節足動物門(有柄目、無柄目、等脚目、端脚目、ミオドコーバ目ウミホタル)		座学		
13	棘皮動物門(ウミユリ綱、ヒトデ綱)		座学		
14	棘皮動物門(クモヒトデ綱、ウニ綱)、棘皮動物門(クモヒトデ綱、ウニ綱)		座学		
15	期末試験		座学		
16	まとめ		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			水族館元館長		

科目名		捕鯨問題			
担当教員	石田 義成	実務授業の有無	○		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	捕鯨は日本の食料確保になんら影響がなく、経済的理由もない。そのため世界からは激しく非難されている。にもかかわらず日本が捕鯨を継続する背景について学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	捕鯨の現状と問題点について学ぶ。水族館や水産関係施設に就職したとき、日本人である限り避けて通ることができない捕鯨問題に対して、客観的な資料を提供し、自分なりの適正な考えを持つことができるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	捕鯨の現状-1(クジラ漁、イルカ漁の紹介)	座学			
2	国際捕鯨委員会(IWC)とは	座学			
3	捕鯨の歴史-1	座学			
4	捕鯨の歴史-2	座学			
5	水族館と捕鯨の関わり-1(イルカ捕獲)	座学			
6	水族館と捕鯨の関わり-2(シャチ捕獲)	座学			
7	捕鯨に対する日本の主張・立場	座学			
8	反捕鯨国の主張・立場	座学			
9	日本に対する批判-1(沿岸小型捕鯨)	座学			
10	日本に対する批判-2(調査捕鯨)	座学			
11	法律では守られないクジラ・イルカ・トド(種の保存法)	座学			
12	法律では守られないクジラ・イルカ・トド(水産資源保護法)	座学			
13	鯨肉の食品としての安全性(水銀汚染)	座学			
14	鯨肉の食品としての安全性(水銀汚染)2	座学			
15	期末試験	座学			
16	試験問題の解答および解説	座学			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		近畿大学講師			

科目名		海洋法・漁業法			
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	領海・排他的経済水域などの設定と利用、生物・鉱物資源の保存・開発、環境保護などについて規定した海洋法、及び漁場の総合的な利用による漁業の発展を目的とする漁業法について学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	漁業や捕鯨を取り巻く種々の法律や政策の現状と問題点について学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	法律とは？(国内法律、国際法、条約)		座学		
2	法律とは？(海洋法)		座学		
3	法律の適用される範囲-1(領海)		座学		
4	法律の適用される範囲-2(排他的経済水域)		座学		
5	漁業法-1(水産基本法)		座学		
6	漁業法-2(漁業権)		座学		
7	水産資源保護法		座学		
8	水産資源保護法		座学		
9	種の保存法・鳥獣保護法		座学		
10	特定外来生物法		座学		
11	生物多様性条約、レッドリスト		座学		
12	ボン条約、ワシントン条約		座学		
13	水産物の食品安全法		座学		
14	水産物の食品安全法2		座学		
15	期末試験		座学		
16	試験問題の解答および解説		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		近畿大学講師			

科目名	魚類概論Ⅱ				
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	呼吸、血液、温度、消化と吸収、排出・浸透調節、内分泌、生殖、魚の毒、鰓、神経系、感覚について、図や写真、表を用いながら視覚的に学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	魚類概論Ⅱに引き続き、魚類の体のしくみについての基礎知識を習得する。水族館やショップなどの仕事に役立つ人材になるために必要な知識を学ぶことを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「魚学入門」恒星社厚生閣				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	魚類の分布・回避		座学		
2	魚類の生息環境		座学		
3	深海環境-1		座学		
4	深海環境-2		座学		
5	魚類の回遊-1		座学		
6	魚類の回遊-2		座学		
7	魚類の回遊-3		座学		
8	魚類の体表構造(鱗、皮膚)		座学		
9	魚類の筋肉		座学		
10	魚類の血合筋(奇網)		座学		
11	魚類の消化器官		座学		
12	魚類の骨格		座学		
13	臨海実習		座学		
14	臨海実習		座学		
15	期末試験		座学		
16	試験問題の解答および解説		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			近畿大学講師		

科目名		水生動植物実験Ⅱ			
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期及び後期前半
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	魚類飼育における水質管理・自作ろ過層の製作・自作水槽の製作を行う。また、プランクトン数の計数方法・魚類やイルカの血液の検査方法を習得する。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水族館やアクアリウム水槽における水質管理の原理を理解し、浄化能力の高い濾過槽を自作することにより水質管理の実践を学ぶことを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	水質-1(塩分量・塩素量)		講義、授業内容に応じた作業		
2	水質-2(比重・温度・塩分)		講義、授業内容に応じた作業		
3	水質-3(水素イオン濃度)		講義、授業内容に応じた作業		
4	水質-4(電気伝導度、濁度)		講義、授業内容に応じた作業		
5	水質-5(溶存酸素)		講義、授業内容に応じた作業		
6	水質-6(溶存酸素と温度が魚類呼吸に及ぼす影響)		講義、授業内容に応じた作業		
7	水質-7(NH4・NO2・NO3・N2)		講義、授業内容に応じた作業		
8	水質-8(アンモニア酸化細菌・亜硝酸酸化細菌・脱窒細菌・硝酸還元細菌・亜硝酸還元細菌)		講義、授業内容に応じた作業		
9	濾過槽の設計		講義、授業内容に応じた作業		
10	濾過槽の製作-1		講義、授業内容に応じた作業		
11	濾過槽の製作-2		講義、授業内容に応じた作業		
12	濾過槽の製作-3		講義、授業内容に応じた作業		
13	濾過槽の製作-4		講義、授業内容に応じた作業		
14	自作水槽の設計		講義、授業内容に応じた作業		
15	自作水槽の製作-1		講義、授業内容に応じた作業		
16	自作水槽の製作-2		講義、授業内容に応じた作業		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			近畿大学講師		

科目名	異文化研究				
担当教員	澁谷 こず恵	実務授業の有無	×		
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	異国の文化(言語、気候、風習、歴史など)を調べ、考察したことをプレゼンテーションする。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	異国の文化について理解を深めることができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	無し				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	研究国の決定、国を調べる				
2	国の文化について調べる				
3	調べたことをパワーポイントに作成する				
4	プレゼンの準備				
5	国についてプレゼン発表				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					



科目名	スイムトレーニングⅡ				
担当教員	アルススイミングクラブ		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	近隣のプール施設を利用し、泳力レベルに応じてチーム分けを行い学生それぞれがその日の課題に取り組む。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水族館就職における必要最低条件、潜水25m＋自由形50mをクリアする				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基本型のマスター		プールでのトレーニング		
2	タイム計測、チーム分け		プールでのトレーニング		
3	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
4	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
5	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
6	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
7	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
8	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
9	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
10	タイム計測、チーム分け		プールでのトレーニング		
11	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
12	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
13	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
14	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
15	タイム計測測定		プールでのトレーニング		
16	フィードバック		プールでのトレーニング		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			企業へ委託		

科目名		海獣類飼育理論Ⅱ			
担当教員	今井健介		実務授業の有無	○	
対象学科	水族館・ドルフィン学科	対象学年	2	開講時期	前期及び後期前半
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	給餌、病気、繁殖、輸送等、生物飼育に関わる知識や見識を得る。対面授業で実施。				対
学習目標 (到達目標)	海獣類の飼育方法を知る				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	新・飼育ハンドブック水族館編(1～2)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	餌料(総論)		座学		
2	餌料(鯨類)		座学		
3	餌料(鯨類)		座学		
4	餌料(鰐脚類)		座学		
5	餌料(鰐脚類)		座学		
6	餌料(裂脚類、海牛類)		座学		
7	病気(総論)		座学		
8	病気(鯨類)		座学		
9	病気(鰐脚類)		座学		
10	病気(裂脚類、海牛類)		座学		
11	輸送(総論)		座学		
12	輸送(鯨類)		座学		
13	輸送(鰐脚類)		座学		
14	輸送(裂脚類、海牛類)		座学		
15	期末試験		座学		
16	まとめ		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で海獣トレーナーとして8年勤務			